GOD BLESSED VIDEO ●ゴット・ブレスト・ヴィデオ

by S. Vai & G. Bonnet

《この曲のポイント》

■Guitar

曲の頭からラストまでギターはデジタル・ディレイをかけっぱなしだ。ディレイ・タイムを♪にセットしたシングル・ディレイで、ドライとディレイとを左右目一杯に広げてある。このような強力なエフェクト効果に加えて、一部ではハーモナイザーまで使っている。アイディアとしては誰でも思いつくことかも知れないが、ここまで徹底的に導入して使いこなしている例はちょっと無いだろう。この曲を演奏するにあたっては、どうしてもディレイが必要になってくる。デジタルがベストだが、アナログでもほぼ同様の雰囲気は再現できるだろう。いずれにしろドライとディレイはステレオにして左右に振り分けないと効果が半減してしまうので、ステレオ・アウトできるタイプのものを用意したい。バッキングのリフに至るまでライト・ハンド奏法を用いた部分が非常に多いので、かなりよいトレーニングになるだろう。

■Keyboard

ドライブ感溢れるリズム・セクションを損わぬよう、歯切れのよいキーボード・ワークで迫りたい。必要に応じてディレイの力を借りながら、アンサンブル全体を華やかに演出していこう。各パートの進行上の注意書きをよく見て弾くこと。

■Bass

アルバム中の全ての曲に言えることだが、とにかく地味なプレイしかしていない。ひたすらハーモニーのボトムをキープし、ドラムスとともにリズムをキープしているだけだ。本曲ではルート音の8分弾きが殆んどだ。ピッキングはオルタネイトの8ビート・ピッキングだが、ダウンとアップで音量やトーンの差異が出ないように心がけたい。G・シェアのピッキングは比較的弱めだが、力強く弾いた方がよいビートが出せるだろう。

■Drums

フィル・インやキメ以外は全て‖♩𝄽𝄾♪𝄽 | ♩𝄾♪𝄾♪𝄽‖という2小節パターンのバスドラを踏み続けている。ベースと同様に地味なプレイだが、ギターのディレイ音にテンポを合わせるのは、以外と難しいはずだ。その点から考えると、バスドラをウラで踏む部分は相当神経を使ってプレイしよう。

Intro.

A Bm G A 𝄋1. D.S. time Straight N.C.

Vo.

Gt.

❶ ❺

Organ 2x only

Kb.

❷

2x only

Ba.

❸

2x only

Dr.

❹ ❻

❶(Gt.)：それぞれの音は拍のオモテで鳴っているが、ディレイ・タイム＝♪のシングル・ディレイが鳴っているため、ドライとディレイとで、結局他のパートと同じリズム・パターンになる。

❷(Kb.)：立ち上がりの鋭いパーカッシヴなオルガン・サウンド。テンポが速いだけに、この通り弾くのは大変だが、和音を両手でつかむとか、拍ウラをディレイ処理で鳴らすといった工夫で、ビシッとタイト

❸❹(Ba.Dr.)：ギターにフォローするためには、ディレイ・タイムとテンポの関係を完全にしなくてはならない。あらかじめ計算しておくか、1回目のギターのみのプレイで把握しなければならない。

N.C.

Vo.

Gt.

8va

D.S.time

D.S.time

❼

Kb.

Ba.

Dr.

❻

A A

Let's take a plane and go some - where ex

cheep kid from Bir - ming - ham blessed with an

Break out the cam - era's that re - shape my

mute

mute

g

❽

E.Piano D.S.1.time only

❾

Strings 2xonly

Strings D.S.1.time only

❺(Gt.)：ディレイ音が8分休符の所で出てくるので、それをはっきりさせるため一音一音をミュートしなければならない。これは❶においても同様だ。

❻(Dr.)：バスドラの2小節パターンを覚えてしまおう。フィルインとキメ以外は、最後までこの2小節パターンをキープしているのだ。

❼(Gt.)：四角い音符の玉はハーモニクスの音を表わしている。フレットの真上で、左手の指を弦に軽く触れてピッキングする。

❽(Kb.)：エレピまたは❷のオルガンを使う。実際にプレイするのは各和音の頭拍だけにして、( )内の音はディレイ処理で自動的に鳴らすようにするとよいだろう。

❾(Kb.)：サウンドは"ストリングス＋パイプ・オルガン"のイメージで軽くコーラス効果を加えるとよいだろう。

A

Vo.

-ot - ic to play with a non - de - script song
ac - cent that pours like the dark - est brown ale
face and get some - one to carve up my hair

Gt.

mute

g

Kb.

Ba.

Dr.

Vo.

Shoot all the crotch shots for twelve - year old hope - fuls to make you a
Just one more pup - pet piss el - e - gant mari - o - nette He's just a
If you can't beat them you might as well join 'em and be glad to

Gt.

mute

Kb.

Ba.

Dr.

A

Vo.

real man ___ my son ___
fast buck ___ for sale ___
say you ___ were there ___

B N.C.

Oh ___
Oh ___
Oh ___

Gt.

with Right Hand

with Right Hand

⑨

(2xonly)

(D.S.1.time only)

⑩

Kb.

Ba.

Dr.

___ real man ___ my ___ son ___
___ fast buck ___ for ___ sale ___
___ say you ___ were ___ there ___

●(Gt.)：右手の指で2/14をタッピング、2/11 ~ 1/2は左手の指で押弦する。ライト・ハンド奏法の基本的なテクニックだが、ディレイ音にまどわされずに弾くのは相当練習と慣れが必要だ。

𝄋2. (Straight)

C

N.C. 2x | A | A(onG) | A | Bm

Vo.: Don't you know that Some God ———— Blessed Vi - de -
Don't you know that

Gt.: with Right Hand → D.S. time

Kb.: Strings →

Ba.

Dr.

A | A(onG) | A | Em | A

Vo.: - o ———— We know —— that God ————

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

●(Gt.)：ライト・ハンドを用いた8小節パターンのリフだが、1～4弦を用いて4、2、3、1、2、3弦の順で弾き、タッピングのリズムも‖♩♩♪♩♪♩♩♪♩‖というようにシンコペーションなので、リズムにのせるように充分練習しよう。

A(onG) A Bm A A(onG)

Vo. Blessed Vi - de - o

Gt. 2x D.S. time

Kb.

Ba.

Dr.

A Em A(onG)

D.S.1.2. time

D

Vo. We know that God

Gt. 2x with Right Hand H+P with Right Hand

with Right Hand ⑫

Kb.

Ba.

Dr.

D.S.1.

●(Gt.)：開放弦へのプリング（開放弦からのハンマリング）を利用した４小節のリフだ。このくらいのフレーズなら左手だけでも弾けるのだが、↓印で示した部分でライト・ハンドを用いている。

A(onG)

to 𝄌

Vo.

Blessed Vi - de -

H+P with Right Hand

Gt.

H+P with Right Hand

Kb.

Strings

Ba.

Dr.

E A Bm G A Aadd9 Bmadd9

Vo.

- o

Gt.

Kb.

Organ

Ba.

Dr.

Bmadd9 Gadd9

F N.C.

Vo.

Gt.

arm

8va Bassa

arm

Kb.

Organ

Bs.

Dr.

Vo.

Gt.

(arm)

(arm)

Kb.

Bs.

Dr.

N.C.

Vo.

Gt.

8va

arm vib

g+arm

arm

8va Bassa

Kb.

Ba.

Dr.

Em7

8va

G

Gt.-Ⅱ

Gt.-Ⅲ

cho+arm

arm

8va

Synth.

●(Gt.)：アーミングやチョーキングを多用したトリッキーなフレーズだが、ピッチの変化の具合からすると2弦を用いていると思われる。

●(Gt.)：2/22、3/22を押弦し、アームを目一杯引張ったプレイだ。

●(Gt.)：オクターヴ奏法によるプレイ。ロックのギタリストにしては多用している方だが、ポジション移動のなめらかな感じは独特だ。

Em7 C 1. G G♯

Vo.

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

A (8va) E 2. Bm G F

Vo.

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

●(Kb.)：ギター・ソロのサポート的役割りを受け持つところだ。スチール・ギターのような伸びのある、ポルタメントの効いた音作りをしよう。

1.2.3. 4.

G

(8va) H N.C. ~

Vo.

Don't you know that

with Harmonize

3x

Gt.

1x

Synth.

Kb.

1x only

Ba.

1x only

1x (>)

Dr.

D.S.2.
al Coda

Coda

Aadd9 Bmadd9 Gadd9 Aadd9

Vo.

Gt.

Organ

Kb.

Ba.

Dr.

●(Gt.)：●と同じリフなのだが、ハーモナイザーを
使って４度上の音を重ねている。

MERCY ●マーシー

by S. Vai, G. Bonnet, J. Waldo, G. Shea & J. Uvena

《この曲のポイント》

■Guitar

さらっと聴き流しているとそれ程難しい演奏はしていないように聴こえるが、聴き込めば聴き込むほど細かい所で凝っているのがわかるはずだ。一度譜面を見ながらラフに弾いてみてから、もう一度聴き直せばその物凄さがわかると思う。リフの方は、ひとつひとつの音をはっきりと出し、休符の部分を完全に休むことに専念すれば形にはなると思うが、アドリブ・ソロに関して（特に[F]での速弾き）は一朝一夕ではとても形にならないだろう。

■Keyboard

ヘヴィメタ・キーボードの基本とも言えるオルガンのバッキングが中心になっている。音を持続させる部分とアクセント的に切る部分とを明確に区別した上で、メリハリのあるオルガン・ワークを目指そう。

■Bass

ギターのリフをフォローする形で同一音の16分弾きが多い。これもオルタネイトによる16分ピッキングだが、16ビートの感覚が完全に身についていないと、一音一音のリズムが揺れてしまうので注意したい。単なる16分音符の連続だからと言ってあなどらずに何度も練習しよう。

■Drums

シンバル類は８分音符をベースにしたプレイで、バスドラの方で16ビートを感じさせる、というドラミングだ。比較的手数が多めのフィルインだが、そのフレーズはシンプルなものだ。彼はツー・バスを使っているが、この程度のドラミングならバスドラひとつでも充分だろう。

Am G Dadd9 Am G Dadd9

Vo.

Gt.

❶

Organ

❷

Kb.

Bs.

Dr.

●(Gt.)：５弦開放のＡ音と、３・４弦、４・５弦による２音の和音とから組み立てられたリフ。ロックのリフの組み立て方としてはオーソドックスなものだが、グリッサンドのニュアンスやDのコード(正しくはDadd9(omit3))のフォーム等がスティーヴらしいところだ。

❷(Kb.)：ハモンド系のオーソドックスなオルガン・サウンド。倍音構成豊かな音作りで。

Am G Dadd9 Am G Dadd9

Vo.

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

❸ ❹

A

Am C Am Em Am C

2x

D.S. x

Sis - ter moon and broth - er sun shin - ing down on my In - dia spread - ing your night a - cross the ground
Great ___ white ___ war - ri - or ___ you are the lone - ly hunt - er kill - ing the Prince of In - dia ___
Chand ba - hen ar su - raj bhy shin - ing down on my In - dia Cha - mak - ta hey ma - na ba - rat ka up - ar

arm

arm

arm

❷

D.S. time only →

❺ ❻

❸(Ba.)：オルタネイトの16ビート・ピッキングによるプレイだ。気を入れて正確で力強いプレイをしよう。１小節目４拍目のバスドラとのユニゾンは特に注意。

❹(Dr.)：イントロのリフは、Ⓒ、Ⓓ、Ⓔ、Ⓗでも出てくるが、それらの部分でもドラムスは、この２小節パターンを基本にしたプレイを展開している。バスドラの♪や♪のタイミングには充分注意しよう。

❺(Gt.)：２小節パターンのバッキング・リフだが、⅓、⅔の和音を用いた点やＣのコード(これも正しくはCadd9(omit3))のフォームが彼らしいところだ。

❻(Dr.)：ベースやギターにも言えることだが、♪♪のリズムのとり方がポイント。ややもすると詰め込みぎみの軽いリズムになりがちなので、全員でヘヴィなノリが出るタイミングを追求すること。

Am Em F△7 E F△7

2x 2,D.S. x **B**

Vo.: guid - ing the ex - e - cu - tion - er ___ Ti - ger burn - ing bright - ly Cry - ing tears of
kill - ing the King of Af - rica ___
guid - ing the lone - ly pre - dictor ___

Gt.: 8va arm, D.S.x, 2x, arm, ❼ 2 x only, ❽

Kb.: D.S. x tacet, ❾, D.S. x only

Ba.: ❿

Dr.: 2x, ⓫

G to Φ Am G Am Dadd9 Am G Am D

C

Vo.: fire ___ Mer - cy ___ Mer - cy Mer - cy ___

Gt. / Kb. / Ba. / Dr.

D.S.

❼(Gt.)：ダル・セーニョ後のみプレイ。このようなリフにハーモニクスやアーミングのトリッキーな音を絡ませるのも彼の特徴だ。
❽(Gt.)：6弦は右手の腹でブリッジ近くをミュートし、ピッキング時のアタックの音がくっきりと出るように。

❾(Kb.)：●のオルガンにレスリー風効果を加え、ヴォリューム・ペダルを踏み込む。休符を正確にとり、タイトにまとめよう。

❿(Ba.)：同じ16分音符の連続でも、ここはギターとユニゾンになるので、わずかなズレも許されない。
⓫(Dr.)：1・3拍のギターとベースの♬♬に対し、バスドラは最初と最後だけ合わせた♪♪にすることでサウンドを引き締めている。

Coda

D

Am G Am Dadd9 Am G Am D

Vo. Mer·cy —— He's my broth - er Mer - cy tears of fire

Gt. 8va h+p cho cho g g h+p cho cho

Kb. Synth. I 12

Ba.

Dr.

Am G Am Dadd9 Am G Am Dadd9

Vo. Mer·cy —— He's my broth - er Mer - cy tears of fire Ah —— Ah —— Oh ——

Gt. g g g g g

Kb. Synth. I

Ba.

Dr.

●(Kb.)：コーラス・パートのサポート、または代用。ヒューマン・ボイスがベストだが、オルガンでも構わないだろう。

Dadd9

Vo.

Burn - ing bright-ly cry - ing tears of fire

Ah Ah Ah

Gt.

arm

arm

Kb.

Ba.

Dr.

Am

Vocal

E

Gt.

G Am Dadd9

8va

cho cho cho cho+p cho

cho

g p g p g p g p h g g

10 6

cho cho cho cho+p cho

cho p g p g p g p g p h g g

17 17 17 17 17 15 17 15 17 17 17 22

22 22 19 18 19 20 19 18 19 20 19 18 19 20 19 18 19 19 19

10 6

13

●(Gt.)：↓印はライト・ハンドによるタッピングだが、2～4回目のタッピングは1/16をタッピングの直後1/20にグリッサンドさせている。これをタイミングよくキメるのは至難の技なので何回も練習しよう。

Am G Am Dadd9 Am G

Vo.

Gt.

cho cho+p cho cho+p cho cho+p cho

arm vib ※

cho

cho cho cho cho

Kb.

Ba.

Dr.

Am Dadd9 Am G Am Dadd9

Vo.

Gt.

h+p h+p h+p cho cho

cho cho

arm cho arm

Kb.

Ba.

Dr.

●(Gt.)：Arm. Vib※とあるのは、いわゆるクリケット奏法。B・ギルスが得意とする技だ。これはフロイド・ローズのアームをブラブラ揺れないように固定し、ピッキングと同時にアームに中指等を当てることで得られるヴィブラートだ。

●(Gt.)：前の小節の音からにハンマリングしながらアーム・ダウン、後はハンマリング＋プリングで音をつなぎ、そのつどアーミングする訳だ。

F FΔ7 Em

FΔ7 G G♯

with harmnizer ~
adds low voice ~

●(Gt.)：何とも恐ろしいスピードのパッセージだが、プリングで音をつないでいるので右手はそれ程きつくないだろう。23：2は2拍のスペースに23個の音が入るという意味だ。1拍12連が少しモタッたと思ってよい。

⑰(Gt.)：ここは全てピッキングしているようだ。ハーモナイザーをかけた上にハモリのフレーズもダビングしているようだが、スコアにはメインのラインのみ記した。

G

Am Dadd9 Am D

Vo.

Burn-ing ti-ger burn-ing

(cho) cho (8va) arm arm

Gt.

(cho) cho

Synth. II

Kb.

Ba.

Dr.

Am G Am Dadd9 Am 2x G 1. Am Dadd9

H

Vocal Fill Vocal Fill

Vo.

Mer-cy Cry-ing tears of fire Mer-cy

2x 8va 8va arm

Gt.

2x arm

Kb.

Synth. I

Ba.

Dr.

●(Gt.)：3/7の音をピッキングし、アーム・アップしたものだが、ピッキング・ハーモニクスが強く出ているので◆で示した。

2. Am | I | Dadd9 | Cadd9 | F

Vo. — Ah — Tears of fire — Ah

Gt. — g

Kb. — Synth. I — Synth. II

Ba.

Dr. — ~Fill~ ~Fill~ ~Fill~

G | Free Tempo | Am

Vo. — Fire — Tears of fire

Gt. — 8va — feed back — arm — arm — g — cho cho cho cho cho — g
feed back arm — arm — arm — arm — g — cho cho cho cho

Kb. — Organ — Synth. II

Ba. — g — g

Dr. — ~Fill~ ~Fill~

●(Kb.)：サウンドはブラスまたはオルガン系の音にモジュレーションをかけるとよい。ポルタメントを多少加味すると効果的だ。

●(Gt.)：2～6弦のコードのフェルマータで、3弦がフィード・バックして2オクターヴ上の音が出たため、アーム・アップした後アーム・ダウンした訳だ。

●(Kb.)：できればストリングス系の音も●に同期させたい。リバーブを派手目にかけ、華やかな雰囲気を出そう。

WIRE AND WOOD ●ワイアー・アンド・ウッド

by S. Vai & G. Bonnet

《この曲のポイント》

■Guitar

アップ・テンポのストレートなナンバーで、ギター・プレイもそれ程シカケは多くないが、Bの部分である音をホールドしたままずっと鳴らし続けておくというサウンド・メイキングをしている。ホールドのできるデジタル・ディレイがあればそれでOKだが、スイッチングのタイミングが意外に難しい。デジタル・ディレイのホールドの代わりにフィード・バックを使うというのもひとつの手だ。ギター・ソロはそれ程難しくないが、かえってバッキングのリフの方がバンドとしてカッコいいので、アップ・テンポにスムーズにのせるようにしたい。

■Keyboard

全編オルガン中心のシンプルなバッキングになっている。ハモンド風の迫力あるサウンドで、ドライブ感溢れるこの曲を華やかに盛り立てたい。リズム・バッキング部ではとりわけ休符に注意して、パーカッシヴにプレイするように。

■Bass

全体を通してほとんどがギターのリフとユニゾンになっている。一見簡単そうに見えるが、曲が終るまでビシっとユニゾンで行くのは非常に難しいことなのでバンド全体でよく練習すること。サウンドは、重厚感を出すためにず太く、かつクリアなセッティングにしよう。

■Drums

ロック・ドラムの定石通りとも言えるほどにオーソドックス、かつシンプルなプレイだ。もともとパワーや勢いよりも頭で叩くドラマーのようだ。ドライブ感を必要とするこのようなアップ・テンポのナンバーでも、頭を使ってソツなくドライブしているようだ。しかし、ここは勢いでノって叩こう。

❶(Gt.)：4～6弦を押弦し、1・2弦の開放を同時に鳴らすというコード・フォームの連続だ。3弦を完全にミュートすることがポイントだ。

❷(Ba.)：8分でクっている箇所がドライブ感を出しているので、1音1音メリハリをつけてしっかり弾くこと。

❸(Gt.)：何とも奇妙なフィルインだが、ライト・ハンドを用いたものらしい。Bにはいってからの22/21のチョーキング音をBのラストまでホールドする。

B F♯

Vo.

Down the street a snake of leath-er slide-ing off to war Out to fight the bat-tle with the boys up-on the boards

Gt.-I cho → hold ~ (8va)

cho → hold ~

❸

Gt.-II

❹

Kb.

Ba.

❺

Dr.

F♯ 2x

Vo.

Up a-gainst the dis-ci-ples with thier backs up to the walls
Crushed a-gainst the bar-ri-cades worked up to a rage

Gt.-I 8va 2x hold → 2x hold →

Gt.-II

Kb.

Ba.

Dr.

❹(Gt.)：4度重ねの2音から成るリフ。スモーク・オン・ザ・ウォーターと同様のリフだが、低音弦の方が大きすぎるとカッコがつかないので弦の音量バランスに注意。

❺(Ba.)：ギターのリフと完全にユニゾンになっている。バスドラの頭2発打ちも含めて、3人でしっかり合わせるようにしよう。

F♯

Vo.

They don't care 'cos they can take the blast They're just out to bust thier balls
How hot it to get and how the leath - er sweats as they reach to (the) claw the stage

Gt.-I

2x hold →

2x hold →

Gt.-II

cho p

cho p

Kb.

Ba.

5

Dr.

C A B A B D(on A)

Vo.

In the a - re - na the bat - tle be - gins They're eye to

Gt.-I

Gt.-II 2x

Gt.-II 2x

Gt.-II

Kb.

6

Ba.

2x

2x

Dr.

(Kb.)：譜面通りでなくてもよいから、とにかくこ
手のアルペジオを思い切り速く弾くこと。各指を
立させて、歯切れよいタッチでプレイ。

❼(Kb.)：くり返し2回目、及びD.S.後には、この部分にのみ上声D♯音を加えること。

D 2x (A) B D A

Vo.: And The Wood (Ooh) They come back to feel the smack from The Wire And The Wood

Gt.-I: 2x Gt.-II with harm. g p

Gt.-II: cho cho p g

Kb.

Bs.

Dr.

to ⊕ B D A

Vo.: Pack the slap don't take no crap from The Wire And The Wood Ooh

Gt.-I: D.S. time Gt.-II g

Gt.-II: g arm

Kb. 4

Bs. 4

Dr.

E F♯

Vo.
Gt.-I
Gt.-II
Kb.
Ba.
Dr.

8va cho arm h+p p p+g g cho+p

❽(Gt.)：ちょっとアラン・ホールズワースを思わせるフレージングだ。プリングやグリッサンドを使って音をつないでいる。

❾(Gt.)：⅔₁₉を右手の指でタッピングし続けて、左手の方を動かしていくというタイプのライト・ハンド奏法だ。フィンガー・ボード上の音を横方向にも把握していないと、このようにスムーズにはいかない。

F

A B A B

Vo. / Gt.-I / Gt.-II / Kb. / Ba. / Dr.

A B A

Vo. / Gt.-I / Gt.-II / Kb. / Ba. / Dr.

●(Gt.)：グリッサンドを多用し多くの音をつないでいる。このグリッサンドの多用は、アラン・ホールズワースの影響はあるにせよ、そのニュアンスはスティーヴ独自のものだと言えよう。

G

B A B A B

Vo.

In an hour or two

Gt.-I

cho cho

Gt.-II

Kb.

Ba.

Dr.

⑪ ⑫

N.C. A B

Vo.

Bat - tle will be done

Gt.-I

⑬→

Gt.-II

⑭→

Kb.

Ba.

Dr.

⑪(Dr.)：いわゆるハーフ・タイムのパターン。つまり今までの2小節分を1小節と感じてプレイする。

⑫(Ba.)：ロング・トーンの終りに2拍、キメが入っている。この8分音符をしっかり弾くことによって次の2小節の休符が生き、曲にメリハリをつけているので、しっかり弾くこと。

⑬⑭(Gt.)：ギター2本の音の積み重ね方がとても不思議なサウンドを作り出している。

B F♯m11(omit3) B A B *N.C.*

Vo.: No one leav - ing in de - feat Both sides hav - ing

Gt.-I: arm arm 8va arm arm 13 15

Gt.-II: arm arm 8va arm arm 14 16

Kb.

Ba.

Dr.

A B A

Vo.: won Blind - ed by the silence

Gt.-I

Gt.-II

Kb.

Ba.

Dr.

(Gt.)：2/4、3/4のハーモニクスを出した後アーム・
ウンする。他のパートが休んでいるだけにこの効
は絶大だ。ここのギターは、失敗は許されないの
合いを入れて弾くこと。

A B A B G A

Vo. Gt.-I Gt.-II Kb. Ba. Dr.

calling them back home

D.S.

Coda

H

B D A

pack the slap hard the crap Wire And The Wood

⑰(Dr.)：8分の7拍子と4分の4拍子が交互に出てくるが、ドラムスのフィルインは3連になっているため、他のパートは注意しないと小節の頭を見失ってしまう

Free Tempo

D A D A

Vo.: Wire ____ And The Wood ____ Wire ____ And The Wood ____

Gt.-I

Gt.-II

Kb.

Ba.

Dr.

B

Gt.

Fill～

⑱(Gt.)：この部分は全くピッキングせずにプリング、ハンマリング、グリッサンドにより左手のみで弾いているようだ。新たな弦に移る時は、左手で強く押離して音を出す訳だ。フィンガリングが完全ならば、それ程難しいテクニックでは無いはずだ。

DESERT DIAMOND ●デザート・ダイアモンド

by S. Vai & G. Bonnet

《この曲のポイント》

■Guitar

E・シタールのアルペジオが美しい曲だ。シタールとは言っても、シタールのような音の出るエレクトリック・ギターの一種なので、もちろん普通のエレクトリック・ギターで代用することは可能だ。下手にエフェクト処理して、似たような雰囲気の音を作ろうと試みるよりは、ギターならギターらしいクリアな音で弾いた方が美しいだろう。また、この曲ではエレクトリック・シタール、エレクトリック・ギターともに、6弦をD音に下げたチューニングでプレイしているので、フィンガリングに注意したい。

■Keyboard

スロー・テンポのナンバーだけにタイミングには充分注意したい。とりわけストリングス系の持続和音を切る時には、曲全体の流れを的確にとらえた上での、細かな配慮が必要だ。決して走ることなく美しくキメよう。

■Bass

ギターと同様に4弦をD音まで下げてプレイしているが、昨今の音楽シーンにおいては、ベースのこのような変則チューニングは当り前になってきているようだ。一般のフェンダー・タイプのベースに一般のラウンド・ワウンド弦の組み合わせだと、4弦のテンションがかなり弱くなりベースらしい音を出しにくくなってくるので各自色々と工夫してほしい。

■Drums

このようなテンポの曲の場合、ギター等は倍テンポで記譜した方がわかり易いのだが、ドラムスのパターンに従って正規の表し方にしておいた。このアルバムの中では派手目のドラミングだが、ヘヴィ・メタル・シーンの中ではまだまだ控え目だ。バスドラのタイミングがポイントで、"タドタタ"というスネア、バスドラ、タムのコンビネーションあたりは特に注意したいところだ。

Intro.
Dm Dm11(omit3) Dm Fsus4(on D) Gsus4(on D) Dm Dm11 Fadd9(♯11)(omit3) G
Vo.
Gt.-I (D)
Gt.-II E. Sitar (D)
Kb.
Ba. (D)
Dr.

❶(Gt.)：大変美しいアルペジオの4小節パターン。特に1小節目の3・4拍目、4小節目1・2拍目の音使いが素晴らしい。

𝄋 *D.S. time Straight*

A

Dm (*D.S. time*) — Dm11(omit3) — Dm — F(on D)sus4 — Gsus4(on D) — Dm — Dm11(omit3) — Fadd9(♯11)(omit3) — G

Vo.
1. Lie in Egyp - tian sands Ethi - o - pian o - ver - lord Roy - al moun - tains stand
2. Eyes of a blind - ed lion saw the age of the Phar - aoh come and re - turn to sand
3. Lie in Egyp - tian sands ___ Ethi - o - pian o - ver - lord Roy - al moun - tains stand

Gt.-I — *1 x tacet*

Gt.-II — 1 x

Kb. — ② Synth. I *1 x tacet*~

Ba. — ③ *1 x tacet* ~

Dr. — *D.S. time*

FΔ9(omit3) — Dmadd9(omit3) — FΔ9(omit3) — Dmadd9(omit3) — FΔ9(omit3) 2 x — Dmadd9(omit3) — FΔ9(omit3) — B♭add9(omit3)

Vo. — (*D.S. time with 2nd Vocal*) ~ 2 x
(D.S.) Guard - ian to ___ the ___ Kings sleep in your dus - ty sea Si - lent shin - ing Des - ert Dia - mond Sleep e - ter - nal - ly ___
Gold and sil - ver ___ gone stripped from your vir - gin stone Still you stand so strong and si - lent Fro - zen by the sun ___
Guard - ian to ___ the ___ Kings sleep in your dus - ty sea Si - lent shin - ing Des - ert Dia - mond Sleep e - ter - nal - ly ___

Gt.-I

Gt.-II — ④

Kb. — ⑤ Strings I *1 x only*~ — ~*1 x tacet*

Ba.

Dr.

②(Kb.)：ギターとほぼユニゾンで動くアルペジオ・パターン。"ベル＋パイプ"風の音色を作ってみよう。

③(Ba.)：4弦がD音のチューニングになっているのに、それを用いずギターとユニゾンでルート＋5thの和音を弾いている。これは次のBのリフの最初1/6D音のインパクトを強めるためだ。なかなか細かい所まで気を配ったアレンジだ。

④(Gt.)：これも美しいアルペジオだ。1/3と3/6の音がポイント。

⑤(Kb.)：重厚なストリングス・サウンド。タイをよく見て、両手を使ってプレイしよう。

Cadd9(omit3)

B Dm

Gsus4(on F) Gsus4

Vo.

Des - ert Dia - mond (Stone ___ le - o - nine) Des - ert Dia - mond

Gt.-I

❻

Gt.-II

2 x tacet

2 x tacet

Kb.

D.S. time ❷

Strings Ⅱ ❼

❺

~1xonly ~1 x tacet

Ba.

❽

❽

Dr.

D.S. time another pattern with Top Cym.

❾

❾

Dm

Gsus4(on D) Gsus4 to ⊕

⊕ Coda

C Dm

F(on D)

Vo.

Des - ert Dia - mond (Stone ___ le - o - nine) Des - ert Dia - mond

1 x

(Lie ___)

Gt.-I

❿

Gt.-II

Gt.

Kb.

❼

⓫

Synth. Ⅱ

Ba.

Dr.

D.S.

❻(Gt.)：ヴォーカルのラインをフォローする形で2音の和音を使ったリフだ。グリッサンドを多用しているので、そのタイミングには注意すること。

❼(Kb.)：❺と比べて薄い感じのオルガンに近いストリングス。ヴィブラートを深めにスピードはゆっくりとかけ、揺れ動くイメージを出したい。

❽(Ba.)：ヴォーカルの"stone leonine"の部分の ユニゾンでフォローする。最低音のD音がヘヴィ 曲を更にヘヴィにしている。

G(onD) G7sus4(onD) G(onD) Dm F(onD) Bm9(♭5)(onD) B♭(onD) C

Vo.

Gt.-I

cho

cho

⑩

Gt.-II

Kb.

⑪

Ba.

Dr.

12

12

D Dm9 F G

Vo.

8va→

cho

cho cho

g

g

Gt.-I

cho

cho cho

g

g

h+p h+p

p g

cho cho

cho cho

cho cho

⑫

Gt.-II

Synth. I

Kb.

Ba.

Dr.

r.)：全パートの2小節パターンに対し、ドラム
このようなパターンをプレイする。4拍目の"タ
タ"のコンビネーションは意外とスマートにキま
いものだ。ジャスト・タイミングを心がけよう。
)：全部で4本のギターが入っている。メイン
っているのはギター・パートの上声部の1本だ。

⑪(Kb.)：ギターを何台も用意できない場合は、(　)内の和音で代用しよう。鋭く伸びのある音で、なるべくギターに溶け込ませるように。

⑫(Gt.)：長3度のチョーキング。1弦のテンションではこれほどスムーズに上がらないはずなので、おそらく2弦だろう。

Dm9 — F G

Vo. / Gt.-I / Gt.-II / Kb. / Ba. / Dr.

Dm9 — F G

Vo. / Gt.-I / Gt.-II / Kb. / Ba. / Dr.

⑫(Gt.)：チョーキング、アーミング、プリング、ハンマリング、グリッサンド等、あらゆるスラーのテクニックを使っている。特にアーム・ダウンや、チョーキング＋アーミングは彼独特のものだ。

⑬(Gt.)：４弦にわたる非常にスピーディなアルペジオのフレーズだ。上行は全てダウン、下行は全てアップでピッキングしよう。

⑭(Gt.)：一定のフィンガリング・パターンでポジション移動していく速弾きだ。この場合は、ほとんどの音をピッキングしているようだ。４拍目ウラの音使いは$D_7^{(\sharp5)}$を思わせる。

Dm9

F G

rit.

Vo.

Gt.-I

cho cho cho cho cho+arm

vib with arm

p p g h+p h+p g

arm+cho

Gt.-II

Kb.

Ba.

Dr.

E B♭△7(13)(omit3) Fadd9(omit3) Am7(on D)

Si - lent shin - ing Des - ert Gi - ant Ethi - o - pian Sons Dia - mond

Strings II

Synth. III

⑯(Gt.)：アームでヴィブラートをかけながら左手のフィンガリング・テクニックで音をつないでいく。

⑰(Gt.)：大きく音の飛んだ、いかにもスティーヴらしいフレージングだ。6弦がD音に下がっていることを忘れずに。

⑱(Kb.)：UFOが飛び立つ時のような上昇音を作ろう。

⑲(Kb.)：シーケンサー及びディレイを用い、譜面のような音型をリピートさせる。キラキラとした減衰音で。

STRIPPER●ストリッパー

by S. Vai & G. Bonnet

《この曲のポイント》

■Guitar

アルバム中、最も親しみやすいアップ・テンポのナンバーだが、ギター・ソロの部分ではS.E.と言ってしまってもいい程のプレイだ。続くシンセ・ソロの部分で少しばかりややこしいプレイをしているのみで、あとはひたすらバッキングだ。しかし、このバッキングのリフがかなり難しいのでトライする価値は充分あるだろう。

■Keyboard

オーソドックスなハモンド風オルガン・サウンドが主体。パーカッションとオーバードライブを効かせた音作りで、カッコよく迫ろう。またボリューム・ペダルをフルに利用し、曲の流れに応じたメリハリのあるプレイを目指したい。

■Bass

非常に速い曲だ。8ビートだが、とても速いパッセージなのでもたらないように注意すること。リピートしてからもパターンが同じなので、しっかり覚えてキメるところはカチっとキメよう。

■Drums

ハーフ・タイムになるEと、随所のキメ以外は2小節パターンを叩き続けている。ちょうどA-1「ゴット・ブレスト・ヴィデオ」でのプレイと同様だ。同じアップ・テンポの曲だが、こちらの方がよりドライブ感のある、ワイルドなドラミングになっている。

●(Gt.)：それ程難しくはないが、実際に弾いてみるとなかなか格好がつかないと思う。高音弦の和音をまとまりのあるサウンドにするためには不要弦のミュートを完全にすること。

Gm7 | B♭ F | B♭ F | Gm7

Vo.

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

3 3 3 3

❷

B♭ | Gm7 | B♭ F

Vo.

Gt.

❸

Kb.

❹

Ba.

Dr.

❷(Dr.)：ポイントでも述べたように、このバスドラム2小節パターンを曲の最後の方まで踏み続けてい

❸(Kb.)：上声を右手、下声を左手で押さえれば楽に弾きこなせるはずだ。

❹(Ba.)：2拍目表の3/0 A音は、しっかりミュートすること。4/5の方がミュートはしやすいが、フィンガリングが難しくなるのでミュートのコツを覚えて開放弦を使うようにしよう。

B♭ F B♭ F B♭ F F♯ Gm7

Vo.

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

A B♭ 2x F C

A dark and crowd - ed room Warm
As - sem - bled in Mex - i - co dark

❺(Gt.)：何気ないバッキング・パターンだが、このテンポではかなり難しいはずだ。

C Gm7 B♭

Vo.
beer that's stale No · body
Span · ish eyes She'll tell you

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

F C Gm7

Vo.
seems to care there's more for sale
where to go if you get wise

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

Gm7 | **B** E♭ | | F | |

Vo.
She walks on the stage
She's your fan - ta - sy

Gt. (arm)

Kb.

Ba.

Dr.

B♭ | | C | | E♭ (2×)

Vo.
Strokes her hips shakes her mane Her
but she won't go too far Oh

Gt. (arm)

Kb.

Ba.

Dr.

❻(Ba.)：このテンポでこのキメは非常に難しい。ドラムスのスネアとピッタリ合わせるように裏をしっかり弾こう。

❼(Gt.)：バッキングでこのようにオクターヴ奏法を用いるのは彼の特徴だ。音が変わる時のポジション・チェンジのなめらかさに注目。

❽(Ba.)：Bの2・6小節目などは特に、右手と左手のタイミングに注意すること。また、4小節目終りのスライドは、5小節目の頭の4/1B♭音につながるように素速く滑らそう。

E♭ F B♭

2x

Vo.

sweet cheap per - fume re - minds them but she's why they
she has ___ to be in league with the guy at the

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

D C Gm7

2x

Vo.

came ___ Oh ___ }
bar ___

She's (the) Strip - per

Gt.

Kb.

Ba.

8

Dr.

B♭ Gm7 B♭ F B♭ F

Vo.

She'll ______ strip your soul ______

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

Gm7 B♭ Gm7

Vo.

Oh ______ She's the Strip - per She'll ______

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

Gm7 B♭ F B♭ F B♭ F B♭ F F♯

Vo.

eat the whole
whole

Gt.

8

Kb.

Ba.

Dr.

1. 2. 4 times Repeat

Gm7 F♯m **D** F♯m G♯m

Vo.

Gt.

8 8va ⑨

Kb.

Ba.

Dr.

2x

⑨(Gt.)：ここはもう一本ギターが重ねてあり、上のパートのギターはコードの5thと3rdを上手く使い分けたラインになっている。ギターが1本のバンドなら、ルート＋5thの省略コードで通してしまってかまわないだろう。

G♯m F♯m G♯m A B 1. A

Vo.

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

A G♯m 2. A A G♯m 3. A A G♯m

Vo.

arm arm arm arm

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

4.

F♯7(♭5,♯9)(on A)

E

E♭

D♭m

Vo.

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

E♭

B

Vo.

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

E♭ D♭m E♭

Vo.

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

B [F] B♭

Vo.

Gt. →

Gt.

8va bassa

arm

arm

Kb.

Ba.

Dr.

●(Gt.)：アームを多用した勢いだけのソロ。ここは弦やフレットをあまり気にせず、フィーリングでプレイしてみよう。

B B♭ B

Vo.

cho+arm arm arm

Gt.

cho+arm arm arm

Kb.

Ba.

Dr.

B♭ B

Vo.

arm 8va arm

Gt.

arm arm

Kb.

Ba.

Dr.

B♭ B G A♭

Vo.

with Harmonizer ~

cho

cho

H+P with Right Hand

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

D♭ G♭

Vo.

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

●(Gt.)：シンセのソロと思われるが、ギターもほぼユニゾンで弾いているようだ。ここでのプレイは、ライト・ハンドを使っていると思われる。

●(Kb.)：シンセで"クラビ＋オルガン"風の音を作ってもよいが、これまでと同じオルガンでかまわない。低い音は左手で取るようにして、テンポにのったリズミカルなソロを展開しよう。軽くリバーブをかけると音に輝きが出るはずだ。

G♭ F N.C.

Vo.

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

H Gm7

Vo.

Gt.

Oh

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

B♭ Gm7 B♭ F

Vo. Stroll back Come in Ah

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

B♭ F *3 times Repeat* Gm7 B♭

Vo. Stroll

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

Gm7 B♭ F B♭ F B♭ F C

3 x rit. [I]

Vo.

Come on (Talk)

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

1 x 2 x

rit.

B♭ A C Gm

Vo.

Stroll

8va arm arm

Gt.

arm arm arm arm

Kb.

Ba.

Dr.

Fill

(Ba.)：ドラムスのフィルが終ってから、イン・テンポで入るスネアをよく聴いて、弾きそこねないようにエンディングをキメよう。

LIGHTER SHADE OF GREEN ●ライター・シェード・オブ・グリーン

by S. Vai

《この曲のポイント》

■Guitar

ギター・ソロの小曲。シンセが薄くフォローしているが、ギター1本だけでもディレイ等の空間処理で充分形になるだろう。ホールドのできるデジタル・ディレイがある時は、⁶⁄₆E音を演奏中にずっと鳴し続けておけば、更に雰囲気がでる。

ギター・プレイは最初から最後まで一度もピッキングせず、ハンマリング、プリング、ライト・ハンドによるタッピングのみで通している。

■Keyboard

牧歌的なソロ・ギターを陰でがっちりと支えるストリングス。倍音構成豊かで重厚なサウンドを出してほしい。ディレイやコーラスの使用で奥行きとうねりが演出できればベストだ。

(8va) E H+P with Right Hand rit. arm Strings

❶(Gt.)：一番最初の2/0はピッキングするのではなく、右手の指先によりプリングの要領で出す。2/5、2/7、[illegible]は順に1、2、4指で押弦。隣接した1・3弦の音を出さないように注意しよう。

❷(Gt.)：冒頭の音は右手の指先でグリス・アップしている。1・3拍目は❶と同様のフィンガリングだが、2・4拍目では2/2、2/5を1・4指のポジションに移動している。

❸(Kb.)：この番号をつけた3ケ所のみ、パイプ系のキラキラとした高音でプレイする。その際、手が足りなければストリングスの高音部を省略してもかまわないだろう。

❹(Gt.)：5連のワン・モチーフをくり返すが、(　)内の音は弾くつもりが出なかった音と思われる。グリッサンドは5連のモチーフをキープするつもりが、ポジション移動のためにグリッサンドになってしまった音だ。

❺(Gt.)：6連ワン・モチーフをくり返す。❹では5連とは言っても、6連の♬♬♪のタイムに近かったので、タッピングのタイミングをここで急に変える必要はないだろう。

❻(Gt.)：右手、開放、左手開放の順に音を出すわけだが、これは並の練習では弾けないだろう。

❼(Gt.)：右手、3指、1指、開放の順に音を出し、1・3指をポジション・ダウンしていく。

❽(Gt.)：右手は使わず左手のみで音を出していく。

❾(Gt.)：6弦開放E音をアーム・ダウンして、正確なD音に落ち着かせたあと、再び元に戻す。



SONS AND LOVERS ●サンズ・アンド・ラヴァーズ

by S. Vai & G. Bonnet

《この曲のポイント》

■Guitar

ミディアム・テンポのナンバーなのでバッキングのリフはそれ程難しくはないし、ギター・ソロも比較的手数の少ないオーソドックスなものなので、アルバム中、最もプレイしやすい曲ではないかと思われる。Cや Eではバッキングに彼が得意とするオクターヴ奏法が多用されているが、これをいかにスムーズにクリアするかがポイントになってくるだろう。この辺の音の動きは、ベース・ラインを思わせるもので、ちょうどテナー・ベースのような役割りをしているようだ。

■Keyboard

ポップな曲調に合わせ、音色もプレイも軽やかに。ストリングスはオルガン系の音を混じえ、高域を強調した音色で迫りたい。またDのシンセ・ソロでは"マリンバ+バイブ"風の音色でスタッカート気味にプレイしよう。

■Bass

ルート音の8分弾きが主体になっている。最もオーソドックスなリズム・パターンの1つだが、テヌートで弾くかスタッカートで弾くかによって全く雰囲気が違ってくるので、ニュアンスの違いを考えてプレイしよう。4小節パターンになっている部分は4小節目でノリが途切れないように注意すること。

■Drums

この曲もノーマルとハーフ・タイムの組み合わせになっているが、テンポがそれ程速くないのでハーフ・タイムになった時、変に間伸びしないように注意したい。ノーマルの時はシンプルかつオーソドックスな8ビートのドラミングを心がけよう。

Intro.

E

Vo.

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

❶(Gt.)：4小節パターンのリフだが、3小節目のコードの動き(A(onE)からEへ)、3～4小節目にかけてのコードの動き(C#m(onE)からBm(onE)へ)が、サウンドを垢抜けたものにしている。コード・ネームは全体でEとして表記した。

❷(Dr.)：ハーフ・タイムのパターン。2小節で というパターンになる訳だ。

E D E **A** A

Vo.

One more ho - tel it's

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

❸

❹

F♯m7 A(on G) A F♯m7

Vo.

twelve o' - clock ___ we're check-ing out ___

Still con - fused and slow to move ___ to

Gt.

h+p h+p

❸

Kb.

Ba.

Dr.

Gt.)：4小節パターン。ややもすると単調になり
うなコード、テンポ、曲想だが、4小節の中で多
こ色々動きのある音使いをしているため、生き生
とした サウンドになっている。

❹(Dr.)：ここからノーマルのタイムになる。

A(onG) A F♯m7 A(onG)

2x

Vo.

get on the bus The driv - er keeps that Mem - phis smile for his good old boys
not just one more show we know it's got - ta be right

Gt.

h+p h+p 4 2x only ~

h+p h+p 4 2x only ~

Strings →

Kb.

Ba.

Dr.

+→ +→

2x A F♯m7 A(onG)

Vo.

He's load - ed them up and heads them out in to the void So we drive
We work the songs then kiss the road a warm good night

Gt.

h+p h+p

Kb.

❺ Synth. I

Ba.

Dr.

+→ +→ 2x 2x

❺(Kb.)：クラビあるいはエレピ系のキンキンした音でシャープな切れ味を演出したい。

B E

and trucks

Chorus

2x Kill we make

Vo.: pass those trail - ers_ and trucks ___ Woo Ooh ___ Yeah ___ We - 'll make good time_

8va →

Gt.

❻

Kb.

Ba.

Dr.

kind of luck

D E

𝄋 (D.S. time Straight)

C A D

Vo.: ___ with some kind of luck ___ some ___ kind of luck ___ An - oth - er vic - to - ry

Gt.

❼

Kb.

3x

Ba.

3x

2x

Dr.

3x

❻(Gt.)：1・3弦を用いたオーソドックスなオブリガートだが、彼の手にかかるとコケティッシュに聴こえるのが不思議。グリッサンドのニュアンスと、独特のギター・サウンドのためであろうか。

❼(Kb.)：コーラスのサポート用。音色はストリングスよりもアコースティック・ピアノ系の方がよいだろう。

Bm7 E Bm7 E D

Ah Ah Ah Ah Ah Ah

Vo. for Song And Lov - ers You gave us the pow - er You gave the

Gt. 2x

Kb. 2x

Ba.

Dr. 2x 1x

E to Φ **D** F C(on G) F

Ah 2x

Vo. pow - er It's

Gt. cho cho p picking harm arm g p

Kb. 2x Synth.Ⅱ

Ba. 2x

Dr. 1x 2, 3x

❽(Gt.)：得意のオクターヴ奏法によるバッキングだ。他曲でも述べたが、ポジション移動のなめらかさはまるでフレットレスのようだ。弦を変えることは少ないので、タイミングさえ気を配ればクリアできるだろう。

❾(Dr.)：再びハーフ・タイムになるので注意。

C(onG) F C(onG) F

Vo.

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

C(onG) E D E

Vo.

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

(8va) 8va h+p arm g h p

D.S.

(Gt.)：このように通常のフレージングの途中で、ライト・ハンドが出てくるのも彼らしいところ。いかにもライト・ハンドというような間がないで、スムーズに溶け込んでいる。

●(Gt.)：このハーモニクスは弦の全長の6分の1の点に触れると出るもの(つまり6倍音)だ。3フレットの真上ではないので、ポイントを熟知した上でプレイしないとこの音は出ない。

Coda

E

A Chorus D Bm7 E

Vo. Gt. Kb. Ba. Dr.

Ah Ah

Just one more vic - to - ry We got the cov - ered

Oh sons And Lov - ers

3x cho

2x

g

7

Bm7 E D E

Ah Ah Ah Ah Ah

You gave us the pow - er You gave the pow - er

2x arm

Strings

Repeat & Fade Out

SKYFIRE ●スカイファイア

by S. Vai & G. Bonnet

《この曲のポイント》

■Guitar

爽やかなイントロから一転してアップ・テンポのヘヴィなリズムに変わる。このイントロのサウンドも、アルバムの中で印象に残るものだが、正に縦横無尽と言った感じのギター・プレイは圧巻だ。特に複数のギターの音を重ねているところや、アドリブ・ソロ後半のハーモナイザーの使い方等が素晴らしい。Eの部分では、ギター2本とベースによるハーモニーが面白いアイディアだ。

■Keyboard

中心となるのはオルガンだが、イントロ部のリードはストリングス系の音に多少ポルタメントを効かせて、格調高く迫りたい。オルガンはハモンド風の音で、あまりエフェクトを効かせず、ストレートな音色設定がよいだろう。

■Bass

ほとんどがギターのリフとユニゾンになっている。したがって、16ビート・ピッキングの部分など正確に弾かないと聴きづらいものになってしまうだろう。

■Drums

Intro、C、D、はハーフ・タイムのパターンで、その他はノーマルだ。この辺の気持ちの切換えや、途中の4分の3拍子等ドラマーにかかる責任は意外に大きい。というリズム・パターンのバスドラが多用されているが、特に1・3拍の16分のタイミングが大きくノリを左右するのでタイトにまとめてほしい。

❶(Dr.)：ハーフ・タイムのパターン。伸び伸びと叩いてほしい。

❷(Ba.)：⅛は中指でグリス・アップすれば次の小節もスムーズに弾けるはずだ。他のフィンガリングもいくつか考えられるが、⁹⁄₁₁のグリス・ダウンをするためには、このポジションがベストだろう。

F♯ | G♯m9 | C♯m11 C♯m(on E) | F♯7(on E) | G♯m9

Vo.

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

❸ ❹ ❺

A G♯m7 | C♯(on G♯)

Vo. Just / As — one / the — more / beach

Gt.

Kb. Synth. I — Organ

Ba.

Dr.

❸(Gt.)：(♭3rd)と(9th)という半音でぶつかる音を重ねているため、とても美しい響きになっている。もう一本のギターとベースのG♯音とでG♯m9(omit5)というコードになる訳だ。

❹(Gt.)：オルタネイトの16ビート・ピッキングで、ドライブ感を出すように心がけて弾こう。

❺(Dr.)：ここからノーマルのタイムになる。♪. ♬ ♪ のバスドラのタイミングに注意したい。

G♯m9 | C♯(on G♯) | G♯m7 | C♯(on G♯) | G♯m9

Vo.

of those eigh-ty two nights We were all cow - boys
turns an om-i-nous green Bathed by light from the

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

C♯(on G♯) | E(on G♯) | F♯(on G♯) | E△7(on G♯) | F♯(on G♯)

Vo.

ready — to ride Fire the gun turn your eyes to the sea
shape in the sky We all tanned in a new kind of sun

Gt.

Kb. ❻

Ba.

Dr.

●(Kb.)：好みに応じてストリングスでも同じ和音を
なぞらせれば、より重厚なサウンドが得られる。

E(on G♯) F♯(on G♯) E△7(on G♯) F♯(on G♯) 𝄋 (D.S. time Straight)

B G♯madd9

2x

Through that night riding your trigger with me
Some-thing's wrong we're get-ting ready to run
Your lo-cal
Your lo-cal
Your lo-cal

Vo. Gt. Kb. Ba. Dr.

❻ ❼ ❽

B C♯ G♯madd9 E△7 G♯madd9 B C♯

sta-tion gives out the news The sky is burn-ing
sta-tion knows what to say It's just a fuel burn
sta-tion screams out the news The sky is burn-ing

cho cho cho arm

❼(Gt.)：シンプルなリフだが、(♭3rd)と(9th)の響きを利用しているため、音数の割には広がりのあるサウンドになっている。

❽(Ba.)：前の小節からなだれこれでくるため、2・3・4拍の4分音符は短かくなりがちだ。充分テヌートして弾くこと。

1.

G♯madd9 E△7 G♯m9

Vo.

in Ma - li - bu
so it's O K
in Ma - li - bu

Gt.

2x arm

2x arm

2x tacet

Kb.

Ba.

Dr.

2. 3.

G♯madd9 B C♯ G♯madd9

Vo.

Please hold the phone calls There's no more
Please hold the phone calls There is no

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

to Φ

E△7 | G♯madd9 | B C♯ | G♯madd9 | C E

Vo.: 2x news / need for a - larm | It's just a / It's just a | Sky - fire / Sky - fire | in Ma - li / Sky - fire | bu 2/19

Vocal | Gt. 8va →

addtional Gts arm

Gt. arm

Kb. 2x Organ

Ba. 9

Dr. 10

E | F♯madd11(on E)

Vo.: 1/16 | 1/18 1/16 2/19 | 1/11 1/12 | 1/11 1/9 2/12 1/19 2/19 | 2/7 2/9 arm

❾(Ba.)：ここで使われているグリッサンドはあまり派手にならないようにすることがポイントだ。

❿(Dr.)：再びハーフ・タイムになるので感覚の切換えをスムーズに。

F♯madd11(on E) | D | F♯ | G♯m | E

Vo.: 2/9 arm 2/7 — arm

Pros to con from dip - lo - mats li - ars———

Gt.: tremolo

Kb.

Ba.: 9 — tremolo — 13 — tremolo

Dr.

F♯ | G♯m | E

Vo.: li - ars——— Words design - ed to tran - quil - ize fight - ers——— fight - ers———

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

●(Gt.)：普通にコードを押さえておいて、そのうちの2本を選んで弾いた、という形のリフ。何でもないアイディアだが、応用がきくので自分なりに使ってみよう。

E C♯m Bm

Vo. Gt. Kb. Ba. Dr.

⑫

⑬ Synth. II

A D♮

⑫

⑬ Synth. II

8va arm

●(Gt.)：ギター２本で、一方がそれぞれのコードのルートを他方が５thを弾き、ベースはその間の３rdの音を弾く、という面白いサウンドだ。ギターは１本でルート＋５thを弾いてしまってもかまわないだろう。

●(Kb.)：エレピ系のパーカッシヴな音色で。ディレイ・タイムを⅓拍分に設定してディレイをかけること。

D♯

Gm9

Gt.

Vo.

Gt.

Synth. I

Kb.

Ba.

Dr.

F

G♯m7

C♯(on G♯)

G♯m9

C♯(on G♯)

arm

p g cho p p g h p+h cho

Organ

●(Gt.)：この4小節余りのパッセージで、ピッキングはたったの4回だけだ。あるいは頭の3/4のみピッキングして、あとは全てスラーでつないでいるとも考えられる。

G♯m7 C♯(on G♯) G♯m9 C♯(on G♯)

Vo.

Gt. cho+p cho cho+p 8va arm with Harmonizer～ h

Kb.

Ba.

Dr.

G♯m7 C♯(on G♯) G♯m9 C♯(on G♯)

Vo.

Gt. (8va) p p+g h 8va g cho ～with Harmonizer

Kb.

Ba.

Dr.

●(Gt.)：左チャンネルから聴こえる音が原音で、右チャンネルはハーモナイザーによる4度上の音だ。スラーを多用しているのでピッキングの方はそれ程キツくない。

⑮(Gt.)：ここもハーモナイザーをかけているが、全ての音をピッキングしている。3/13、2/12、1/11、は全てダウン・ピッキングで、左手の押弦とタイミングを合わせて和音にならないように注意すること。

G♯m7 C♯(onG♯) G♯m9

Vo.

with Harmonizer ~

cho cho+p

Gt.

Kb.

Ba.

Dr.

C♯(onG♯)

Gt.

~8va

D.S.

Coda

E F♯ G♯m

burn - ing in Ma - li - bu

Organ

●(Gt.)：実にユニークなフレージングだ。2/17、2/16をチョーキングするところに注目してみよう。

BREAKING THE HEART OF THE CITY ●ブレイキング・ザ・ハート・オブ・ザ・シティ

by S. Vai & G. Bonnet

《この曲のポイント》

■Guitar

この曲では何と6弦をC音まで下げた変則チューニングのギターが使われている(当然それにともない6弦のゲージは太いものを使っていると思うが)。そのため、特に最低音のC音は単音で一発鳴らしただけでも相当の迫力。しかし6弦のフィンガリングが通常と変わってくるため、充分習熟しておかないと簡単にミスってしまうだろう。

■Keyboard

神秘的なイメージをエキゾチックに演出するためにも、重厚なストリングスを前面に押し出したい。多少ヴィブラートでピッチを揺らし、アタックを遅めに設定するように。左手もきちんと譜面通りにプレイしよう。

■Bass

この曲では4弦だけチューニングをC音に下げてプレイしているが、普通のベースでこういうチューニングをするとかなり無理があるので、通常のチューニングでプレイできるように若干アレンジしてある。スロー・テンポでこのようなフレーズをキープするのは意外と難しいものだ。突っこみ気味になりやすいので注意すること。

■Drums

3拍目16分喰いのオーソドックスなシンコペーションのパターンを叩き続けているが、シンコペーション直後、3拍目頭のハンド・クラップが非常に効果的で、従来にない新鮮なリズム・パターンのように聴こえてくるほどだ。

Intro.

Vo.
In The
Gt.-I
Gt.-II
(C)
Kb.
Ba.
Hand Clap
Dr.
❶

❶(Dr.)：3拍目16分喰いのパターンだが、シンバルを使っていないので音の切れがよりヘヴィな雰囲気を盛り上げている。こうしたパターンも難なくタイトに叩いているあたりからも、柔軟なドラマーだということがわかるだろう。

(Chord 2x)
C Dm(on C) B♭(on C) C Em(on C) C Dm(on C) B♭(on C) Dm(on C)

A (Chorus 2x only)

Vo.
London rain the sun called Go West The American loves the way you speak English And they
look down on the New York sky line There's someone waiting for you among the crowd He

Gt.-I
cho cho 2x g cho
❷

Gt.-II
2x only →
cho g
❸

Kb.

Ba.

Dr.

Dm(on C) F(on C) C B♭(on C) Dm(on C) B♭(on C) C

Vo.
watched you growing as their son for so long How they long to embrace you tell you This is home
wants to be just like you he wants to be a friend to you Reach inside and just be part of you

Gt.-I
g cho gva cho arm
❷

Gt.-II
g arm
❸

Kb.

Ba.

Dr.
2x 2x

❷(Gt.)：1回目はヴォーカルとユニゾンのメロを弾いているが、同弦上を一定の指で押弦し続けて（つまりグリッサンドしながら）いる。これにより非常になめらかに音がつながっている訳だ。彼は押弦する指を真っすぐ伸ばした感じの独特なフォームでここを弾いている。

❸(Gt.)：リピート後のみだが、ヴォーカルの4度下のラインをGt. Iと同様に弾いている。ヴォーカルとGt.-Iがユニゾンでルートを、コーラスが3rd、Gt. IIが5thという音の重ね方でトライアドを形成しながら進んでいく。コード・ネームはリピート後を表わしている訳だ。

B 1.

N.C. C B♭ C B♭

Vo. Be-lov-ed for-eign-er ______ this your A-mer-i-ca Wants you to stay ______ for - ev - er ______

Gt.-I g g g arm arm g

Gt.-II

Kb. Strings

Ba. h

Dr.

N.C. C B♭ C B♭

Vo. Be-lov-ed for-eign-er ______ this your A-mer-i-ca Wants you to stay ______ for - ev - er ______

Gt.-I g g g cho cho cho

Gt.-II g

Kb.

Ba. 4

Dr. 4

N.C.

2. E♭△7(♭5)

Vo.
As you He saved the pho·to· graphs

Gt.-I
Gt.:I,III,IV → —8va →
Gt.-I only →
❹

Gt.-II
❺

Kb.

Ba.

Dr.

F6 C B♭ Cadd9 B♭add9(♯11)

Vo.
he read the mag·a· zines Mak·ing you part of the ci·ty

Gt.-I
cho cho cho cho

Gt.-II
❺ ❻

Kb.

Ba.

Dr.

❹(Gt.)：コーラスとギターが入り乱れて聴き取りにくいのだが、どうやらギターは3本でメロを弾いているようだ。タブ譜には一番上のパートのみ示しておいた。

❺(Gt.)：よほど太い弦をはらないと、6弦はテンションが弱くユルユルになってしまう。その状態で強くピッキングすると簡単にピッチが上がってしまうので注意しよう。

❻(Gt.)：大変よくできたリフだ。⁶⁄₀のC音と⁴⁄₅、⁵⁄₃のCのコードとの使い分けがポイントだ。⁴⁄₅、⁵⁄₃の時に決して⁶⁄₀の音が鳴らないように注意すること。

E♭△7(♭5) F Gm(on F) B♭(on F) C B♭

Vo.: Be-lov-ed for-eign - er some-one to cru - ci - fy Break - ing The Heart Of The

Gt.-I (g, cho, cho)

Gt.-II

Kb.

Ba. (h)

Dr.

C B♭ D E♭ E♭ F

Vo.: Ci - ty Oh

~ Gt.-I.III.IV

~ Gt.-I only

④

Strings

Organ

⑦

❼(Kb.)：パーカッションの効いたオルガン・サウンドでギターとユニゾンのリフをキメる。両手を使えば楽に弾きこなせるだろう。

❽(Gt.)：短3度のチョーキング。ピッチを正しく合わせるように。

❾(Gt.)：頭の3/17のみピッキングして、そのあとの音はアーム・アップの勢いで音を出す。素速いアーム・アップをすれば、それだけで音が出るものだ。

C N.C.

Vo.

Gt.-I

Gt.-II

Kb.

Ba.

Dr.

D Cm7

C7sus4

In

Strings →

❽(Gt.)：これもよくでてくる突然に入るライト・ハンド奏法だ。

⓫(Gt.)：3弦開放の8倍音を使ったものだ。ハーモニクス・ポイントは3フレットの真上よりは少し4フレット寄りだ。少しでもズレると全く音にならないので注意したい。

⓬(Gt.)：このようなフォームで1オクターヴ上の音も同時に出しているようだ。通常のチューニングでは滅多に出てこないフィンガリングなので少し練習が必要だろう。

D(on C) Dm(on C) D(on C) Cm△7 B♭(on C) D♭(on C) B♭(on C)

Vo. the ______ In ______ the ______

Gt.-I

Gt.-II

Kb.

Ba.

Dr.

Cm△7 Cm7 F(on C) D E♭

Vo.

Gt.-I

Gt.-II

Kb. Organ

Ba.

Dr.

●(Dr.)：符点8分からモチーフを2回くり返したフィルイン。つまり♪.♬ ♫のリズム・パターンにのせたフィルということだ。

E♭ F **E** F(onC) C B♭(onC) F(onC) C B♭(onC)

Vo.: In the London rain the sun ——— called Go ——— West The A-

Gt.-I

Gt.-II

Organ

Kb.: ⑪ Strings

Ba.

Dr.

B♭(onC) F(onC) C F(onC) C E♭

Vo.: -mer-i-can loves to hear ——— you speak English He took your au-to-graph ———

Gt.-I: arm

Gt.-II

Kb.

Ba.

Dr.

⑪(Kb.)：ここからは原曲のコーラス・パートもストリングスでカバーする。

F C B♭ C B♭

Vo.

Spit out the mag - a - zine Break - ing The Heart Of The Ci - ty

Gt.-I

Gt.-II

Kb.

Ba.

Dr.

C B♭ C B♭ C B♭

Vo.

Break - ing The Heart Of The Ci - ty Break The Heart

Gt.-I

Gt.-II

Kb.

Ba.

Dr.

B♭ C B♭ C B♭ C B♭

Vo. Break ____ The Heart ____ Break - ing The Heart ____ Ci - ty ____

Gt.-I

Gt.-II

Kb.

Ba.

Dr.

C B♭ C B♭ C B♭

Vo. Break - ing The Heart ____ Of The Ci - ty ____ Break The Heart ____

Gt.-I

Gt.-II

Kb. Strings (11) Strings

Ba.

Dr.